

外科 マンスリーレター 2018.1



明けましておめでとうございます。いつも大変お世話になっております。市立大津市民病院外科の平田 渉と申します。

当院外科は、消化器の良・悪性疾患からヘルニアや肛門疾患、乳腺まで幅広く診療しておりますが、外科医にとって腹部救急疾患に対する緊急手術も重要な業務の一つです。今回は当院外科の夜間・休日の救急対応についてご紹介します。

当院外科では、24時間、365日、常に緊急症例に対応できる体制を整えています。具体的には初期対応医、上級医、指導医の3人の当番を毎日決めています。外科対応が必要な患者様がいらっしゃれば初期対応医が診察を行い、緊急手術が必要と考えられる場合は上級医と相談し手術適応を決定します。困難症例や重症症例であれば指導医にも相談し判断を仰ぐようにしています。そして麻酔科、手術室のスタッフの協力のもと、迅速に緊急手術を行うことが可能な体制となっております。

ところで、緊急手術と言えば開腹手術でもしかたがないと思われるでしょうか。近年、腹腔鏡手術の技術と器具の進歩に伴い多くの手術で腹腔鏡手術が可能となり、当院でも積極的に腹腔鏡手術を行っています。しかしながら緊急手術となると、様々な条件により腹腔鏡手術が困難となる場合が多いのも事実です。ただし我々は、緊急手術においても患者様の負担軽減のため可能な限り腹腔鏡手術を選択し、低侵襲な手術を心がけています。

急性虫垂炎や急性胆嚢炎の緊急手術はほぼ全例で腹腔鏡手術を行っており、その他にも上部消化管穿孔も良い適応となっております。特に最近では、以前は腹腔鏡手術が禁忌とされていた腸閉塞に対しても積極的に腹腔鏡手術を取り入れ、良好な成績を得ています。原因不明の急性腹症や腸管虚血、穿孔などにおいては診断的腹腔鏡検査としての有用性も報告されています。

さらに、急性虫垂炎では、炎症の程度や年齢を考慮しつつ、通常は複数のポート孔（創）で行う手術を一つの孔（創）のみで行う単孔式手術を取り入れ、緊急手術であってもより美しくきれいな創で手術を行うことを目指しています。



通常ポート



キズがきれい！



単孔式



昨年は1月から12月の1年間で119例の緊急手術を行いました（院内発症も含む）。原因疾患は様々ですが、そのうち82例を腹腔鏡手術で行い、虫垂切除、胆嚢摘出、上部消化管穿孔症例は全例を腹腔鏡手術で完遂しています。また、腸閉塞に対する緊急手術も36%を腹腔鏡手術で行っています。

もちろん、安全性を最も重視し危険な手術にはならないように慎重に行い、困難である場合は躊躇なく開腹移行するよう心がけています。もし急性腹症で気になる患者様がいらっしゃっても、遠慮なく、安心してご紹介下さい。

それでは、今年も宜しく願い申し上げます。